

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科

 上越市栄町 2-2-25
 TEL 025-544-7777(代)
 025-544-7779(保育室)
 FAX 025-544-8456

 各種ネット予約
www.0255447777.com/i
 ホームページ
www.kodomo-iin.com

急に肌寒いと感じる日が多くなってきました。季節は冬に向かっています。

風邪ひきさんが増えています。体調に気をつけてお過ごしください。

このところいくつものショッキングな数字が紹介されています。

まずは今年の出生数が84万人と、過去最低になる見通しだとの報道。100万人を切ったのが4年前なので、その減少速度の早い事！



「終身雇用」です。それでは企業の競争ができないとして、非正規雇用が簡単にできる制度に作り変えられてきました。派遣やアルバイトです。当然低収入ですし、不安定な働き方です。

さらに、今年4〜6月の妊娠届数が昨年より11%も減少したという数字。もしこのままのペースが続けば、来年の出生数は70万人台になってしまつ可能性があります。言うまでもなく、新型コロナが日本の社会に与えた影響です。大打撃となって

いのでよ。

かつての日本は、いったん就職するとそのまま長く同じ会社で働き続けるという雇用習慣がありました。

「終身雇用」です。それでは企業の競争ができないとして、非正規雇用が簡単にできる制度に作り変えられてきました。派遣やアルバイトです。当然低収入ですし、不安定な働き方です。

新型コロナウイルスは社会の中で弱い部分に打撃を与えました。若い世代も多大な影響を受けてしまいました。将来に希望が持てない。というか、今を生きる十分な収入すら得られない。そんな状態では、結婚すること、子どもを産み育てることに消極的になるのは、当然の成り行きでしょう。

新しい政権が誕生しましたが、このことをどれほど真剣に考えている

のか、心配です。政府の政策に「不妊治療の保険適応」がありますが、これは的外れ(保険ではなく公費です)べきです。根本的な少子化対策に踏み込んだ政策がありません。今すぐに若年者の収入をアップし、生活を安定させることができなければ、日本は沈没していくことでしょう。事態は深刻です。

感染症情報

このところ急に気温が下がり、肌寒いと感じる日が増えてきました。そのためか咳や鼻水といったいわゆる風邪ひきさんが次第に多くなってきました。でも、特定の感染症が流行している様子はありません。マスクや手洗いといった基本的な感染予防策をしっかりとっているためだと思えます。

新型コロナウイルス感染症も当地では発生を見ていません。しかし都会では一定の発生があり、流行している状態です。世界的にもまだまだ流行は続きそうです。引き続き、特に流行地との往来には注意しててください。

溶連菌感染症と**アデノウイルス性咽頭炎**が少数ですが発生しています。どちらも咽頭痛と発熱が特徴で、登園(登校)停止になる感染症です。溶連菌感染症は抗菌薬の治療が必要です。

水痘が一部の保育園で発生しています。1歳で2回のワクチン接種を受けているため、通常は重い症状にはならず、また大きな流行になることはありません。

感染性胃腸炎も若干の発生があります。小児は脱水や低血糖になりやすく、ぐったりとしている場合はすぐに受診して下さい。これから寒い季節になるとより流行しやすくなります。手洗いなどを励行し、食品の衛生管理にもご注意ください。

風疹や**麻疹**の発生は当地ではありません。

今月の予定

院長出務

上越市夜間診療所出務 18日

有田保育園健診 4日

ちびっこ保育園健診 4日

谷浜小学校健診 18日

上越有線放送 「健康ライフ」17日

FM上越 「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃〜(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃〜

上越有線放送: 月曜午後6時〜(番組内)

相談の窓口拡充

新型コロナウイルス感染症が疑われる時、または心配な時は直接医療機関に向かうことはせず、保健所内に設けてある「帰国者・接触者相談センター」に電話し、指示を受けることになっています。

発生数が少ない時はこのシステムがうまく機能していましたが、春先に流行が拡大した時は、特に東京などの流行地でパンク状態になりました。電話すらつながらない状態。

当時は「発熱しても4日は待つように」という明確な指示があり（時の大臣はそれは誤解だと言いつつしましたが）、医療を受けられずに亡くなる方まで出る始末に。

帰国者・接触者相談センター
上越保健所（平日日中のみ）
電話 025-524-6134
新潟県福祉保健部健康対策課
電話 025-280-5200

起こさないよう対策を考えました。発熱者はま

もの。新型コロナの検査もできる医療機関を増やし、地域の中で検査もするというシステムです。

これまでの点での対応が面になり、相談や検査を受けやすくなることを目指していますが、実際にうまく行くでしょうか。保健所の仕事を民間に丸投げしているだけでは、という批判も起きそうです。

新潟県では、保健所の相談受付の役割はそのまま残すことにしました。その上で、かかりつけの病院内での対応も行います。県内で約500の医療機関が相談の機能を担うことになりました。当院もそのための準備をしているところです。

現在、当地では市中感染にはなっていないので直ちに必要になることはないでしょう。

もし流行地に訪問したあとなどに新型コロナ患者に接触したと思われる場合や、今後市中感染が始まった場合には相談窓口を使ってください。特に発熱に加えて息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）がある場合などは、新型コロナが心配です。

30年の歩み (6)

● 1999年3月 FAX サービス開始

当院は各種の情報発信を行っています。まずは毎月発行している「こども通信」。A4 1枚（裏表2ページ）にまとめた毎月のお便りです。流行している病気について書いたり、その時々のお話を記したりしています。いわば「流れる情報」（きっと毎月作りますが、毎月捨てられているでしょう）。

その中から、いわば定番の情報をまとめたのが「ヘルスレター」です。病気、健康づくり、予防接種などについての知識をまとめたものです。こちらは「とどまっている情報」。

いずれも紙媒体で、それを来院された方にお渡ししたり、郵送したりして活用しています（今でもそれは変わりません）。

そんな情報を電話やファクシミリ（FAX）を使ってお伝えする事業を始めました。近隣の事業者からの求めに応じて、当院が情報を無償で提供するというシステムです。電話では感染症情報を聞くことができ、FAXではヘルスレターと同じ紙面を引き出すことができます。

電話回線を使うことで、当院からの情報提供は一段階進歩したことになります。ただ、インターネットの環境がぐんぐんと整備されていく中で、FAXなどの手段はすぐに陳腐化。数年で終了した事業でした。

● 1999年8月 ホームページ開始

さらに情報提供は進歩することになります、それも格段に！それがインターネットを通しての情報提供です。まずはホームページの作成。さらにメールマガジンの発行です。

当時はネット環境が徐々に整備されてきていました。すでに電子メールが一般化。企業も自社のホームページ（HP）を立ち上げ、情報発信を活発化させていました。

遅れてはならずと、当院も頑張ってみました。HPの作り方といった参考書を買ひ、ほぼ独学で。分からないところはシステムエンジニアの方に「家庭教師」になっていただきました。苦闘すること数ヶ月で、世に送り出すことができました。

医院の情報という、まずは診療案内ですが、それだけでは面白くない。こども通信やヘルスレターの情報も全部デジタル化して収載することもできます。

さらに私がやりたかったのはブログです。日々の出来事や思ったことをタイムリーに書くことです。電子版の日記ですね。どれほどの方が読んでくれたのか分かりませんが、当時「院長ブログ」で検索すると、上位1桁にはヒットすることが多かったです。

さらに読者の方からの質問に答えるコーナーも。質問は毎日3件ほど。年間で約千件。7年ほど続けていました。

今考えても、よくそのエネルギーが保てたね、と自分で自分を褒めています。